児の入院に対する母親の心理的反応の推移

中村　孝・大久保俊夫・北野　市子
金田　早苗・大橋　裕子
（静岡県立こども病院）

こどもが入院するという事態は，それが突然であっても，予定されていても家にとっては大きな出来事である。そうした事態の中で母と子の絆は強められてゆくに違いない。然し，その推移を適格に捉えることは容易ではなかった。児側に，疾患の苦痛，手術，処置への恐怖，母子の分離不安などがあり，母側にも疾患，手術への恐怖，経済的，肉体的苦痛があってそれらの因子が大きく心を覆ってしまうので，母子の絆を正しく抽出出来ないのである。今回の報告は，比較的単純な手段を用いて，健康児及びその母と，入院児及びその母をテストし，両者を比較しようとしたものである。

研究方法

小嶋教授が作製された母子関係検査法をスケールとして用いることにした。この検査法は，白板の上にグレーの身体と黒い細い線による顔と四肢のみが画かれている小児図版と母親カードよりなり，小児図版のこどもの姿態1枚毎に最も適当と思われる母親カード（Mカード）を選んで，自分の思う位置におき，短かいストーリーを話をしてもらうという順序でテストをすすめる。原法では小児図版は11枚であるが，集団検査のため，6枚（図1）を選んで検査にあてた。母親カードは原法通り8枚，裏と表の姿態があるので16種である（図2）。このテストによって得られる情報は，こども図版毎に，どのMカードが選択されたか，こどもから何センチ離しておかれたか，どのようきストーリーが語られたかの三種である。

検査対象

対照として得られた例数は，健康な幼児（幼稚園年長組）の母親38例，健康な小学校1，2，3年生計60例，及びその母親59例である。対する入院児は4歳から13歳までの小児24例とその母親23例であるが，今回の検討では対照と年令を合せるため，小児14例と母親16例を用いることにした。

研究結果

A　健康児の母子ペアについての検討

症例：小学校1，2，3年生の健康児童59名とその母親である。

1. Mカードの選択

小児図版（C－1）（こどもが倒れて，手，足をあげている図である）に対して，小児及び母親が選んだMカードの枚数は図3の如くであり，小児ではM5，M2，M4の順になり，母親では，M2とM5が等しくついでM3の順になる。M5は小児の25に対し，母親は14であり，1％の危険率で小児に多く，M3カードの選択は小児の2に対し，母親が14で母親に高い。これはこどもの姿態を小児は「転んだ，早く助けて欲しい」とみているが，母親は「ふざけている，だだをこねている，大げさである。」とみている差であろう。

両手を眼にあてているC－2図版では（図4）小児と母親との間にM5，M3，M7カードに有意差があった。小児はM5の駆けよりを期待するが，母親は静止のM2を選び，小児はM3の叱られを予想するが，母親はM7の泣きまねで応じようとする反応は面白い（図5）。

両手をあげて飛びはねているC－3図版では，母親のM5の選択が多くなる。これは，小児の動きの大きさに母親もつられていると考えてはいけないだろうか（図6）。

このようにして6枚の小児図版についてテストを行なった結果，選択されたMカードの枚数は図7の如くであった。母親にあっては，M2，M5M3，M4の順であり，小児にあっても，M2，M5，M4，M3とほぼ同じであったが，小児では動きのあるM5が多くなり，叱っているポーズ

M４を期待する場面が多くなる。

母と児の間にMカード選択について共通性はないか，母と児は同じカードを選ぶ傾向はないかについて，６図版すべてで検討したが，相関性はなかった。

2. こどもとMカード間の距離について

各こども図版について，こどもとMカードの距離の平均は表１の如く，小児が母親より近くなっている。ここには小児の生活空間が狭いという発達上の意味があろう。こども図版毎のMカード距離，いわば遠位性，近位性は母児で殆ど変りがなく，母親はC－３，C－１，C－６，C－２，C－５，C－４の順に近くなり，小児ではC－３，C－１，C－６，C－４，C－２，C－５の順であって，こども図版の姿態に動きが大きいと，距離は離れてくる傾向がみられる。

ペアの母児について，Mカード距離に相関性があるかを調べたが，こども図版すべてについて相関はみられず，この距離についても家族の傾向はみられなかった。

B　入院児と健康児

以上のような健康児成績と対比しながら，入院児とその母親についての検査結果をのべる。

1. Mカードの選択

a）母親：図７の如く入院児の母親が選択したMカードはM５，M２，M３が多く，健康児の母親と比較しM３が多く，M４が少くなる。その理由は明かではないが，拒否的度合いが少くなるとみるのであろうかと考えている。

b）小児：小児のテストでは，入院児，健康児間に有意の差はない。

2. Mカードの距離（表２）

表２の如く入院児の母親は健康児の母親に比してMカードを近くおく傾向がある。C－１図版については有意に近く，その他C－４図版を除いてすべて平均距離は入院児の方が小さかった。

3. ストーリーについての検討

各テスト毎に語られた短かい物語りを原法に従い４つの面から検討した。

a）母子関係の知覚（表３）

ストーリーにおいて，母児のいづれから行動がはじまっているかを主体にした分類である。M↔Cは母児同時に，一緒になって行動している。M－Cは同時ではあるが，目立った動きはない。M→Cは母側から行動をおこし，C→Mは児から行動がおこっているとする。こうして母子関係の知覚をみると，母親のテストでは入院児と健康児との間に差はなく，児のテストでは，入院児にC→Mの表現がやや増加するという傾向がみられる。

b）母親行動

ストーリーで語られている母の行動を17の項目に分類してみると，母親テストでは有意差はないが，小児のテストでは，6) giving praise or affection（こどもをほめたり勇気づけたりする）13) reassuring（こどもを慰めたり勇気づけたりする）の２項目が入院児に多く，7) helping（母親がこどもに身体的な助けを与える）9) interfering by structuring（母親がある行為を望ましくないとして行動を止めさせる）の２項目は入院児のテストに少なかった。

c）こどもの母親に対する態度（表４）

物語りの中で，こどもは母にどのような態度をとっているか，不明，欠如も加えて７項目に分類した。これでは，母親のテストでは入院例に拒否が多く，児のテストでは入院児に，愛着が多く，依存が少なかった。この意味づけも安易には出来ないが，小児側から愛着のサインを出していても，母親はそれを読みとれず拒否として受けとめているのではないか，と考えるのである。

d）母子相互パターン（表５）

母子相互のつながりが，身体を通して，言語で，その他の何によって行なわれているかを調べたものである。この調査でも，母親テストでは有意差はなく，小児のテストで入院児には身体的が少なく，言語的が多いという結果となった。これをそのまま解釈すれば，入院している小児に対して，母親は症状や雰囲気により小児の身体に直接触れる行動を遠慮しているということになるのであろう。

考　　察

健康な児童とその母親についての比較をはじめに行ない，その結果に基づいて入院児と健康児，及びその母親同士の比較を行なってみた。

健康な児とその母親についての検討では，同じ小児のポーズでも解釈の違いがあることを知った。

概略的にいえば，小児は母親に対し動きのある反応を期待し，母親は静止の姿勢で反応しようとしている，小児の動きが大きくなったとき母親は，はじめて動きで反応する。小児はある場面では母親の叱責を期待しているが，母親は他の動作で反応していることがある，などが目立つ差であった。また一般に小児は母親を近く置こうとし，母親は離れるという傾向もあるが，これは小児と成人の認知する空間の範囲が異なるためであるかもしれない。

入院児と健康児との比較では，選択されたMカード数の差が母親テストにみられた。入院児の母親が健康児の母親より，M３，腰に手を当てるポーズを多く選び，M４腕を組むポーズを少なく選んでいた。共に拒否ではあるが，その程度は腰に手をあてる方が弱いので入院児に多く選ばれたのであろうと推測した。

こども姿勢と対応するMカード間の距離において，倒れているこども姿態が，健康児では母が離れるのに，入院児では母親，小児の両方のテストで近くおかれていたのは興味あることであった。入院という環境下では倒れている姿勢をふざけている，だだをこねているとは受けとめられないのであろう。

こども姿態とMカードによって作りあげられる短かいストーリーからいくつかのことを知ることが出来た。行動は小児例から起されることが多い，小児は母親をほめたり，勇気づけたり慰めたりしてくれる存在としてみる傾向がある。こどもの側から母親に愛着の信号が多く出されているが，母親はその信号を拒否と誤解している。小児のテストでのストーリーでは母子相互関係は身体的ではなく言語的である，などが有意性をもって見出された特徴である。

われわれは以上のことから，小児は入院中であっても，母親は外の社会に居るので，反応は正常に近い。然し，入院中の小児は多くの反応を示しはじめている。それは愛情を要求し，身体的反応を求めるものであって，外見からは分らないが，小児においてホスピタリズムがはじまっているらしいと考えたのである。

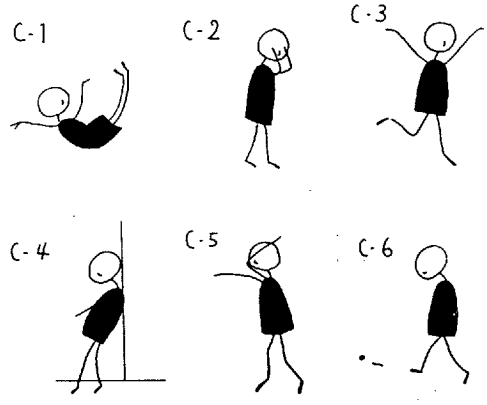


図１　検査に使用したこども図版６種

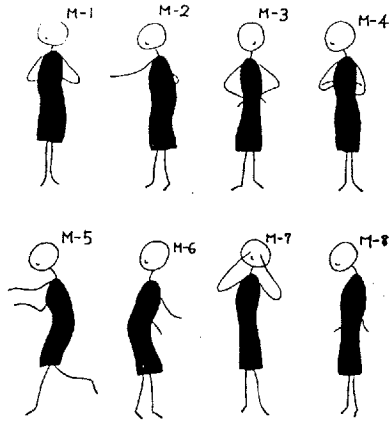


図 2　母カード（Mカード）8種

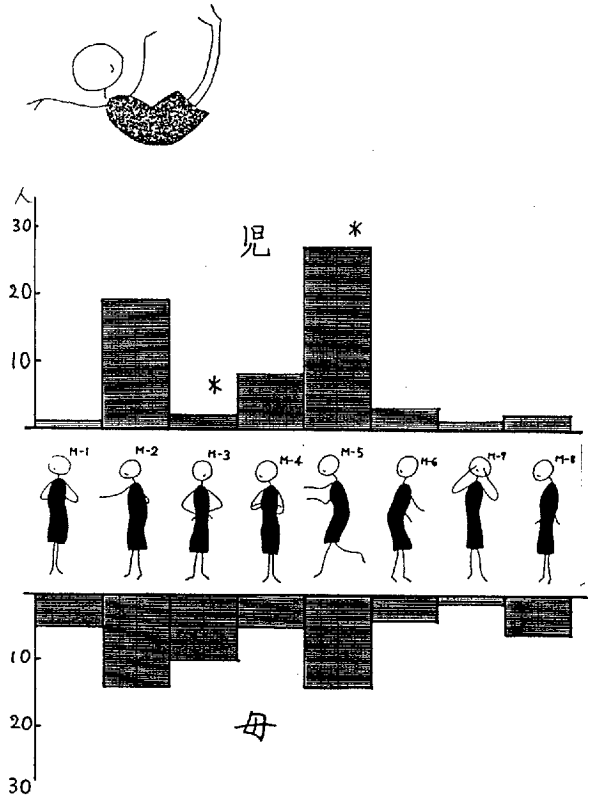


図 3　カードの選択（C－1）児と母

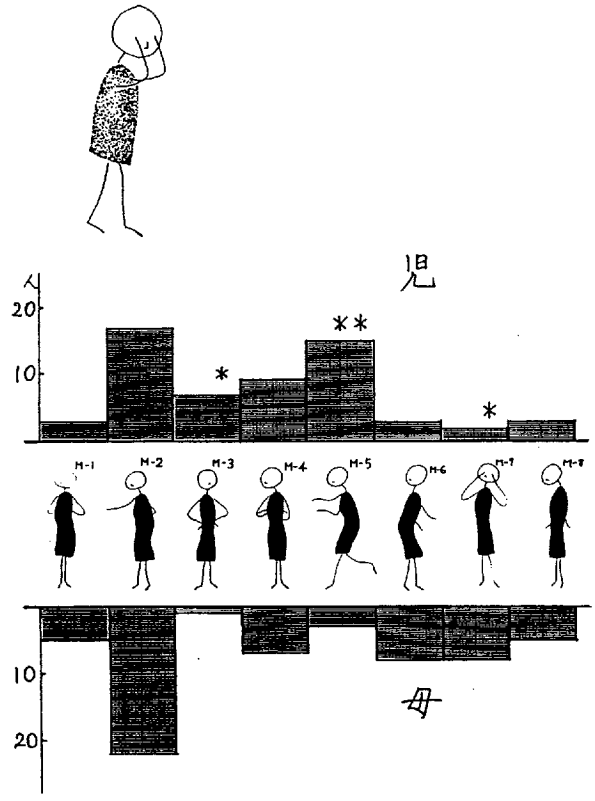


図 4　カードの選択（C－2）児と母

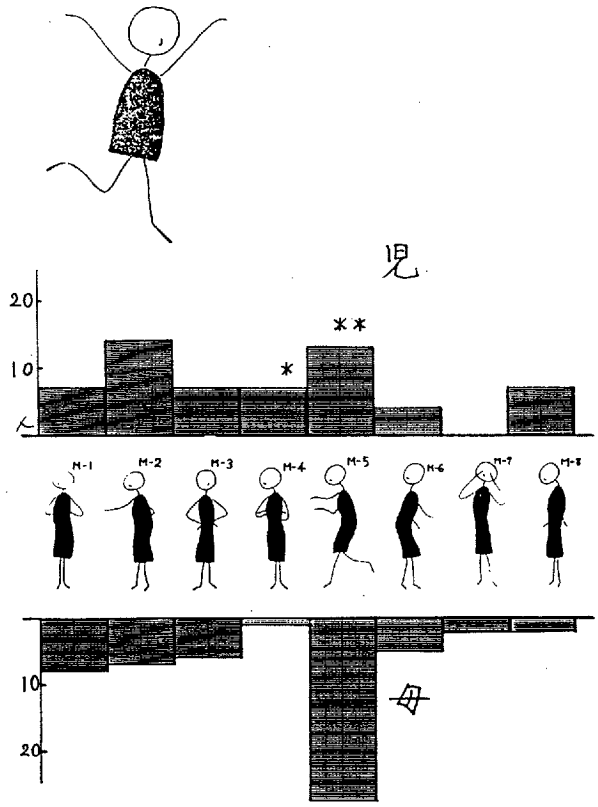
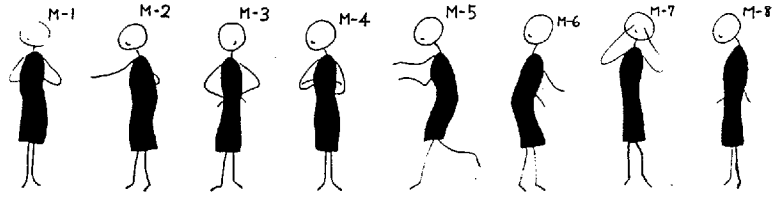


図 5　カードの選択（C－3）児と母



MOTHER							
34	100	40	38	60	35	19	26
CHILD							
23	89	39	47	82	23	11	38

図 6　選択したカード数（母と児）

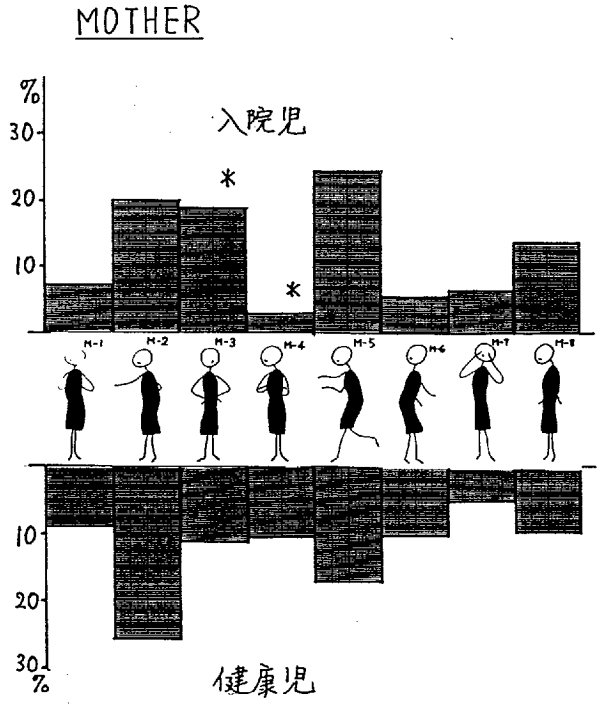


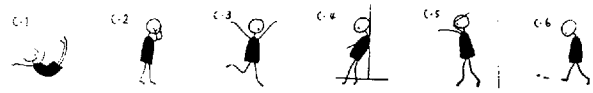
図 7　入院児と健康児　カードの選択

表1. 距離の検定（母児の差）

こども図版	母		児		検　定
	距　離	SD	距　離	SD	
C－1	13.2	3.4	10.0	2.7	＊＊p＜.01
C－2	12.8	3.5	9.4	2.4	＊＊
C－3	13.5	3.1	10.9	2.5	＊＊
C－4	11.9	3.9	9.9	2.9	＊＊
C－5	12.2	4.2	9.3	2.9	＊＊
C－6	12.2	3.9	10.4	3.4	＊＊

表2. 入院児と健康児　図版別平均距離

MOTHER



		C－1	C－2	C－3	C－4	C－5	C－6
入院児の母親	$\bar{x}$	11.1	10.9	12.1	11.5	10.7	12.2
	SD	3.56	3.20	3.10	3.10	4.08	4.50
	n	15	16	16	14	15	15
健康児の母親	$\bar{x}$	13.2	12.5	13.4	11.8	12.5	12.6
	SD	3.51	3.62	3.35	3.90	3.95	3.74
	n	97	96	97	96	93	97
t		2.153	1.628	1.540	.236	1,579	.334

図版C－1で入院児の母親が近くに置く（p＜.05）

表3. 入院児と健康児　母子関係の知覚

MOTHER

	M↔C	M－C	M→C	C→M	C・M	M(→)C	C(→)M	Σ
入院児（母）	12	1	60	18	0	4	0	95
健康児（母）	62	4	376	90	3	39	7	581
χ^2	.332	.147	.053	.727	.493	.858	1.195	

有意差なし

CHILD

	M↔C	M－C	M→C	C→M	C・M	M(→)C	C(→)M	Σ
入院児（児）	5	0	65	11*	1	0	0	82
健康児（児）	41	5	271	24	1	6	2	350
χ^2	2.203	1.185	.130	3.837	1.257	1.426	.471	

C→M入院児13.4％＞健康児6.9％　$p < .10$

表4. 入院児と健康児　こどもの母親に対する態度

MOTHER

	愛着	依存	攻撃	拒否	叙述	欠如	不明	Σ
入院児	31	15	1	7	13	13	15	95
健康児	162	111	24	12	147	60	65	581
χ^2	.90	.59	3.96	8.41	6.10	.96	1.66	

拒否　入院児7.4％＞健康児2.1％（$p < .01$）

叙述　入院児＜健康児（$p < .05$）　攻撃　入院児＜健康児（$p < .05$）

CHILD

	愛着	依存	攻撃	拒否	叙述	欠如	不明	Σ
入院児	29	12	3	8	11	5	13	81
健康児	53	98	8	31	38	55	69	352
χ^2	18.46	5.90	.54	.09	.51	4.93	.54	

愛着　入院児35.8％＞健康児15.1％（$p < .01$）

依存　入院児＜健康児（$p < .05$）欠如　入院児＜健康児（$p < .05$）

表5. 入院児と健康児　母子相互作用パターン

MOTHR

	身体的	言語的	視覚的	物を媒介	Σ
入院児	14	67	4	0	85
%	16.5	78,8	4.7	0	
健康児	62	420	33	7	522
%	11.9	80.5	6.3	1.3	
χ^2	1.41	.12	.24	1.15	

有意差なし

CHILD

	身体的	言語的	視覚的	物を媒介	Σ
入院児	11	67	0	2	80
%	13.8	83.8	0	2.5	
健康児	90	243	3	3	339
%	26.5	71.7	.9	9	
χ^2	5.80	4.90	.71	1.43	

身体的　入院児＜健康児　$p < .50$

言語的　入院児＞健康児　$p < .05$

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

こどもが入院するという事態は,それが突然であっても,予定されていても家にとっては大きな出来事である。そうした事態の中で母と子の絆は強められてゆくに違いない。然し,その推移を適格に捉えることは容易ではなかった。児測に,疾患の苦痛,手術,処置への恐怖,母子の分離不安などがあり,母側にも疾患,手術への恐怖,経済的,肉体的苦痛があってそれらの因子が大きく心を覆ってしまうので,母子の絆を正しく抽出出来ないのである。今回の報告は,比較的単純な手段を用いて,健康児及びその母と,入院児及びその母をテストし,両者を比較しようとしたものである。